

2018.3.25 受難の主日

エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ

マルコによる福音 15:1-30

夜が明けるとすぐ、祭司長たちは、長老や律法学者たちと共に、つまり最高法院全体で相談した後、イエスを縛って引いて行き、ピラトに渡した。ピラトがイエスに訊問した。

「お前がユダヤ人の王なのか」

イエスは、答えられた。

「それは、あなたが言っていることです。」

そこで祭司長たちが、いろいろとイエスを訴えた。ピラトが再び尋問した。

「何も答えないのか。彼らがあのようにお前を訴えているのに。」

しかし、イエスがもはや何もお答えにならなかったため、ピラトは不思議に思った。

ところで、祭りの度ごとに、ピラトは人々が願い出る囚人を一人釈放していた。さて、暴動のとき人殺しをして投獄されていた暴徒たちの中に、バラバという男がいた。群衆が押しかけて来て、いつものようにしてほしいと要求し始めた。そこで、ピラトは、言った。

「あのユダヤ人の王を釈放してほしいのか」

祭司長たちがイエスを引き渡したのは、ねたみのためだと分かっていたからである。祭司長たちは、バラバの方を釈放してもらうように群衆を扇動した。そこで、ピラトは改めて、言った。

「それでは、ユダヤ人の王とお前たちが言っているあの者は、どうしてほしいのか」

群衆はまた叫んだ。

「十字架につけろ。」

ピラトは言った。

「いったいどんな悪事を働いたというのか。」

群衆はますます激しく叫びたてた。

「十字架につけろ。」

ピラトは群衆を満足させようと思って、バラバを釈放した。そして、イエスを鞭打ってから、十字架につけるために引き渡した。兵士たちは、官邸、すなわち総督官邸の中に、イエスを引いて行き、部隊の全員を呼び集めた。そして、イエスに紫の服を着せ、茨の冠を編んでかぶらせ、

「ユダヤ人の王、万歳」

と言って敬礼し始めた。また何度も、葦の棒で頭をたたき、唾を吐きかけ、ひざまずいて拜んだりした。このようにイエスを侮辱したあげく、紫の服を脱がせて元の服を着せた。そして、十字架につけるために外へ引き出した。そこへ、アレクサンドロとルフォスとの父でシモンというキレネ人が、田舎から出て来て通りかかったので、兵士たちはイエスの十字架を無理に担がせた。そして、イエスをゴルゴタという所——その意味は「されこうべの場所」——に連れて行った。没薬を混ぜたぶどう酒を飲ませようとしたが、イエスはお受けにならなかった。それから、兵士たちはイエスを十字架につけて、

その服を分け合った、

だれが何を取るかをくじ引きで決めてから。イエスを十字架につけたのは、午前九時であった。罪状書きには、「ユダヤ人の王」と書いてあった。また、イエスと一緒に二人の強盗を、一人は右にもう一人は左に、十字架につけた。

†そこを通りかかった人々は、頭を振りながらイエスをののしって言った。

「おやおや、神殿を打ち倒し、三日で建てる者、十字架から降りて自分を救ってみろ。」

同じように、祭司長たちも律法学者たちと一緒にあって、代わる代わるイエスを侮辱して言った。

「他人は救ったのに、自分は救えない。メシア、イスラエルの王、今すぐ十字架から降りるがいい。それを見たら、信じてやろう。」

一緒に十字架につけられた者たちも、イエスをののしった昼の十二時になると、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。三時にイエスは大声で叫びました。

「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。」

これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。そばに居合わせた人々のうちには、これを聞いて、

「そら、エリヤを呼んでいる」

と言う者がいた。ある者が走り寄り、海綿に酸いぶどう酒を含ませて葦の棒に付け、

「待て、エリヤが彼を降ろしに来るかどうか、見ていよう」

と言いながら、イエスに飲ませようとした。しかし、イエスは大声を出して息を引き取られた。

すると、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂けた。百人隊長がイエスの方を向いて、そばに立っていた。そして、イエスがこのように息を引き取られたのを見て言った。

「本当に、この人は神の子だった。」

説教

「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ」

イエスは断末魔の苦しみの中で大声をだして息を引き取りました。マルコ福音書に記録されていることばは エロイ、エロイ、レマ、サバクタニだけです。きょうのマルコ受難物語のなかでイエスは二回ことばを残しています。ひとつは断末魔のことば、もう一つは「それは、あなたが言っていることです」ピラトの尋問に答えてイエスのこゝろ答え、あとの尋問に対しては沈黙しています。

物語には多くの方がでてきますが、イエスの側の間人は二人だけです。一人はシモンというキレネ人、彼は田舎から出てきたところいきなり徴用されてイエスの十字架をかつぎました。もう一人は十字架刑の執行責任者であろうローマ軍の百人隊長です。

二回の発言、二人の味方、受難物語はその隙間を埋めるように語られています。一人ひとりが受難を深く記念することができますように。
